

# にしっこ 西っ子のみなさんへ 109 9月22日

あす 明日9月23日は、<sup>しゅうぶん</sup>「秋分の日」ですね。お彼岸で、お墓参りをする日です。  
この時期、<sup>しき みち ある</sup>道を歩いていると目に入るのが「赤い花」の彼岸花です。別名は  
<sup>まんじゆしゃげ</sup>曼珠沙華です。原産は中国で、<sup>げんさん ちゆうごく</sup>道端や土手などに<sup>みちばた どて</sup>群生し、秋の彼岸のころに、  
<sup>かけい さき</sup>花茎の先に赤い花を咲かせます。花期が過ぎた後に<sup>かき す あと</sup>葉が伸ばし、<sup>はの きゆうこん えいよう</sup>球根に栄養を  
貯めて枯れるという<sup>た か めすら</sup>珍しい性質をもっています。

土の中にある<sup>きゆうこん どく</sup>球根には毒がありますが、昔、  
<sup>しょくりよう</sup>食料がない時には、球根にある<sup>どくぬ</sup>デンプンを毒抜き  
きして食べることもありました。

花の色は「赤」しか浮かびませんが、<sup>じつ</sup>実は白、  
ピンク、黄、クリームなどもあります。



<sup>ひがんばな ふしぎ</sup>彼岸花の不思議なところは、どうして彼岸の  
<sup>ぜんご いっせい さ</sup>前後に一気に咲くことができるのかということです。<sup>ふつうしょくぶつ にっしょうじかん</sup>普通植物は、日照時間や  
<sup>きおん</sup>気温をもとに、ある<sup>じょうけん</sup>条件になった時に花を咲かせます。

しかし、彼岸花は、土の中であって、葉も出していないので、どのように花  
を咲かせる<sup>じょうけん かん</sup>条件を感じているのでしょうか？ とても不思議です。

調べてみると、彼岸花は土の中の<sup>おんど かん</sup>温度を感じて花を咲かせるようです。<sup>ふゆ さむ</sup>冬の寒  
<sup>しき</sup>い時期をすごし、<sup>すこ あたた</sup>少し暖かくなった<sup>はる</sup>春ごろから、花を咲かせる<sup>じゅんび</sup>準備に入るみた  
いです。しかし、夏の暑い時期には生育が止まり、<sup>なつ あつ</sup>少し<sup>せいいく と</sup>温度が下がって、土の  
中の温度が20℃ぐらいになると花茎の<sup>の</sup>伸ばして花を咲かせるということです。  
そのため、<sup>かんさい ほう かんとう</sup>関西の方が関東の方より10日ほど花期が<sup>おく</sup>遅れるみたいです。

冬でも<sup>ふゆ</sup>最低温度が20℃を下回らない<sup>おんど</sup>温室の中で育てると、寒さを感じてい  
ないため、花をつける<sup>じゅんび おこな</sup>準備が行われず、葉は出るので、花は咲かないそ  
うです。球根がちゃんと温度を感じているということです。

多くの植物は、<sup>おお</sup>花芽が<sup>はなめ つく</sup>作られるために、<sup>すうにち</sup>数日から数週間<sup>ていおん</sup>低温にさらされる必要  
があります。つまり冬の寒さを経験して<sup>けいけん</sup>春を迎えると、<sup>むか</sup>気温が関係して花芽が  
大きくなり、やがて花が咲かせるわけです。

日照時間がある<sup>きじゅん</sup>基準より長くなると花芽をつくるもの（キキョウ・フヨウな  
ど）。逆に<sup>みじか</sup>短くなると花芽をつくるもの（キク・ツバキなど）もあります。

<sup>く かえ</sup>繰り返しになりますが、<sup>しょくぶつ</sup>植物もわれわれ人間と同じように、<sup>にんげん</sup>季節を感じなが  
<sup>せいかつ</sup>ら生活をしているということです。